



「東日本大震災」支援・横軸連携(姉妹校交流等)

■全日本中学校長会役員が被災地訪問

平成28年7月12日(水)から14日(木)にかけて、全日本中学校長会役員による東日本大震災被災3県(岩手、宮城、福島)訪問のため、榎本智司会長、直田益明総務部長、中村豊支援委員長、堀井榮夫事務局長の4人が、12日から一泊二日の日程で来県しました。県中学校長会からは、菅原正弘会長、高橋康文副会長、各常任委員並びに事務局が同行し、釜石市立釜石東中学校、大槌町立大槌学園、陸前高田市立第一中学校を訪問しました。

1日目は、来年度の開校に向けて建設が進む釜石東中学校の工事現場を見学しました。ガラスを多く使用する校舎や体育館等からは眼下に海を臨むことができ、明るく近代的な建築となっています。次に、仮設校舎の釜石東中学校を訪問しました。全校生徒の合唱で出迎えられ合唱で見送られました。感情豊かに真剣な眼差しで合唱する生徒たちの姿勢に、榎本会長は挨拶の中で、時折言葉を詰まらせながら生徒たちを激励しました。

その後、今年度秋開校予定で、建設工事が着々と進む大槌学園の工事現場並びに仮設校舎を訪問しました。震災から5年余が経過し、仮設校舎も老朽化が進み厳しい環境の中、授業等に頑張る生徒・教職員の様子を聞き、全日中役員の皆様から激励の言葉がありました。2日目は現在も校庭に仮設住宅が建ち並ぶ陸前高田・第一中学校を訪問し、その周辺を案内いただきました。

2日間の訪問期間中、菅原会長から全日中に対して、被災校の現状や課題、姉妹校連携の状況、今後の連携の在り方や要望等について、随時説明を行いました。全日中からは、風化させない取組等について話題があげられ、協議を深めることができました。



釜石東中学校
生徒による合唱



大槌学園建設現場を視察する榎本会長ら

■陸前高田市立気仙中学校と一関市立大原中学校との「朝顔交流」

文化部を中心に育てた朝顔「ヘブンリーブルー(天上の青)」の苗を、6月7日(火)、生徒会の代表4名が、一関市立大原中学校生徒会に寄贈しました。(平成23年度からの交流)

大原中学校生徒会では、早速ボランティアを募り、きれいな朝顔の花が咲くことを願いながら、プランターへの植え替え作業を行いました。

県教育委員会発行の復興副読本には、平成23年度大原中3年加藤葵さんの「朝顔交流」にかかわる作文が掲載されています。



朝顔の苗を贈る気仙中(右側)生徒

■宮古市立第一中学校と盛岡市立下小路中学校による熊本募金

日時：4月25日(月)～29日(金)

場所：25日(月)～28日(木)は中学校、29日(金)は魚菜市場

内容：

東日本大震災津波を経験した私たちだからこそできることを考えたい。震災の際、沢山の方々から支援をいただいた。今回は私たちがその恩返しをする番。熊本をはじめとする被災された皆さんのために募金活動を行い、義援金を送りたいと考えました。

生徒会の希望で義援金のうち50,059円は宮古市を通して熊本県へ。残りの100,000円を50,000円ずつ熊本県益城町の益城中学校と木山中学校に送金しました。その際、「心のかけはしプロジェクト」で連携校である盛岡市立下小路中学校も一緒に送金することとしました。



魚菜市場の前で募金活動をする一中生徒